

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価（3月28日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教 育 課 程 学 習 指 導	①令和4年度導入した教育課程を検証し、共通及び専門教科の学力向上と課題解決能力を育むことで専門性の向上を図る。  ②生徒の主体的な行動を促し、生徒会活動や農業クラブ活動を充実させる。	①令和4年度導入した教育課程を検証する。共通教科及び専門教科の全教科で課題解決型学習習得の実践を行い、生徒の課題解決型学習能力の向上を図る。  ②特別活動の魅力を伝えるとともに、生徒の意欲を引出す。生徒会活動や農業クラブ活動でプロジェクト学習法を習得し、課題解決能力の向上を目指す。	①研究授業や授業観察での振り返りを活用し、全ての教科において年間を通して最低1回、課題解決型学習を伴う授業実践を行う。  ②地域貢献活動や各種発表会の機会を積極的に紹介し、活動への参加に向けて具体的な道筋を示す。プロジェクト学習法の定着から専門研究部での応用研究に発展させ、各種発表会等への参加を目標とする。	①実践した課題解決型授業について、職員による相互評価並びに生徒による授業評価から課題解決能力の向上が見られたかを確認する。  ②各種大会や競技会への参加及び地域貢献活動において、前年度の活動実績を上回ることができたか。	①研究授業においては「課題解決学習の実践」または、「専門性の向上」をテーマに実践された。全教科課題解決型学習の実践については全ての教科で実施された。  ②地域清掃活動や生徒会・農業クラブ本部が合同で実施しているフードバンク活動等の地域貢献活動や各種発表会への参加を積極的にすすめたことにより、各種発表会における出場者は、昨年度の1.4倍となり、意見発表において関東大会出場に繋がる実績を上げた。	①職員による相互評価を実施することができなかったので、次年度は、授業観察時に教科を問わず他の教員の授業を参観するような機会を設定していきたい。  ②引き続き、地域貢献意識の醸成を図るとともに、貢献活動及び各種発表の機会への積極的な参加を呼びかけ、生徒のプロジェクト学習法や課題解決能力の向上を目指す。	①授業参観時、生徒たちが主体的に課題に取り組んでいる姿に触れ、とても素晴らしいと感じた。また、「課題解決学習の実践」が行われている点を高く評価できる。時間の制約等もあり、教員同士の相互評価は難しい面があるかと思うが、ぜひ推進してほしい。  ②生徒会活動や農業クラブ活動において、地域の活動に積極的に参加し活動の成果を上げているとともに、各種発表会への参加実績が前年度を上回っている点は十分に評価できる。プロジェクト学習については、内容も充実しており、発表の態度もよく、指導の成果が出ているように思う。	①各教科において生徒たちが主体的に課題に取り組むことができた。また、全教科において「課題解決学習の実践」について取り組むことができた。  ②生徒会や農業クラブにおいて、地域の活動への参加が増加した。また、プロジェクト発表並びに意見発表等も前年度を上回っており、指導の成果が出た。今後は各教科における課題解決学習の充実を目指す。	①授業観察時に教科を問わず他の教員の授業を参観するような機会を設定し、教員同士の相互評価に繋げていく。  ②各教科においてプロジェクト学習法の習得を進め課題解決能力のさらなる向上を目指す。
2	生 徒 指 導 ・ 支 援	①基本的な生活習慣を確立・定着させるとともに、規範意識の醸成を図り、ホームルーム活動や部活動を通して、豊かな人間性、社会性を育む。  ②インクルーシブ教育の視点にたった生徒一人ひとりの個性や状況に応じた生徒指導と生徒支援の両立を目指しながら、体制の充実を図る。	①正門や昇降口での登校指導をはじめとして日常的な生徒への声かけに努め、基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の定着を図る。  ②インクルーシブ教育の視点にたった生徒一人ひとりの個性や状況に応じた生徒指導、支援体制の充実を図る。	①身だしなみや交通安全、時間を意識した生活習慣を身に付けさせるため、家庭とも緊密に連携し、HR活動、授業、課外活動等のあらゆる場面ですべての教職員による生徒への支援を行う。  ②生徒支援体制の充実に向け、教育相談やサポートドック等を活用し、SC・SSWと情報共有してスクリーニング会議、プッシュ型面談を実施する。また、えびな支援学校のセンター的機能を活用する等、個々の教育相談の機会と充実を図る。	①多様性に配慮しつつ、適時適切な指導が実施できたか。身だしなみや遅刻に係る状況に改善の傾向が見られたか。  ②生徒支援体制を軸にした教育相談における実施状況、生徒情報の共有が適切に行えたか。また、えびな支援学校の巡回指導やカウンセリングにおいて生徒をどのように指導できたか。	①登校指導を毎週3回実施して生徒に注意を与えることにより、啓発を行うことができた。また、生徒の実態を踏まえて服装規定の部分的な見直しを実行し、状況の改善を図った。遅刻に係る状況については改善されず課題を残す結果となった。  ②SC・SSWを含む全職員の協力のもと、「かながわ子どもサポートドック」を有効活用することができた。多くの生徒から話を引き出す機会が増え、充実したものとなった。えびな支援学校からも適切な助言等を得ることができた。	①「生徒指導提要」に基づき、社会通念の変化や地域の実情、生徒の実態に応じた指導のあり方を不断に検証し、職員の共通理解を確立していく必要がある。今後も継続して登校指導並びに日常的な生徒への声かけを実施していく。 ②年間の計画の中に「かながわ子どもサポートドック」や面談の時間等を位置づけ、より効果的に運用できるよう取り組む必要がある。	①社会に出る際に一番大切な身だしなみや遅刻などしない時間を守る指導をこれからもお願いしたい。 学校を訪問した際に、しっかりと挨拶ができる生徒が多く、指導の成果が出ているように思う。  ②多様な背景を持ち、多様化する生徒の実態に応じた指導・支援対応の構築にはご苦労があると思う。今後もSC・SSWとの連携も深めながら一人ひとりに寄り添う指導・支援が推進されることを望む。かながわ子どもサポートドック等の活用により学校と生徒の関係が非常に良い環境にあるように見受けられる。生徒の素直な意見が聞ける環境作りをこれからもお願いしたい。	①挨拶がしっかりとでき、服装の乱れもなく、掃除も行き届いている点は、中央農業の強みである。遅刻をせず、時間を守ることにについて今後課題となっている。  ②SC・SSWを含む全職員の協力のもと、「かながわ子どもサポートドック」を有効活用し、学校と生徒の関係を非常に良い環境にすることができた。今後は、さらに個々の生徒の実態に応じた教育相談等に利用することが課題となる。	①多様化する生徒の実態に応じた指導・支援対応の構築を目指す。今後も継続して登校指導並びに、日常的な生徒への声掛けを実施していく。  ②多様な背景を持つ生徒がいる中で、SCやSSWとの連携を継続しながら、支援を進めていく。今後も継続し、えびな支援学校からの指導助言等を得ながら個々の教育相談に活かしていく。
3	進 路 指 導 ・ 支 援	①体験的学習を重視し、勤労観・職業観を育成し、進路指導の充実を図る。	①勤労観・職業観を育成するため、農業体験活動並びにインターンシップ活動の充実を図る。	①勤労観・職業観の意識向上を目指し、協力企業・農家へのアプローチや生徒の事前指導を徹底する。	①農業体験活動やインターンシップ活動等への参加者が増加したか。	①企業や実習先と連携を図り、充実した活動ができた。参加者は昨年度と比べると減少したが、参加者全員が単位修得につながった。説明会等は予定通り5回実施した。	①生徒の参加が増加するためにより一層企業や実習先と連携を図り、充実した活動をしていきたい。単位修得にも継続して指導していきたい。	①農業高校の特性を生かし、農業体験活動やインターンシップ活動を通して農業理解を深め、職業観を醸成することで、成果が上がっている点を評価する。今後も多くの生徒が参加できるように充実を望む。	①農業体験活動やインターンシップ活動を通して農業理解を深め、職業観を醸成することで、参加者全員が単位修得することができた。	①今後も生徒のニーズにあった企業や実習先と連携を図り、充実した活動をしていく。

	視点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価 (3月28日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		②社会的自立に向けた教育の充実に取り組む。	②生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路説明会・進路別ガイダンスを計画的に行う。	②面談等を通じて生徒一人ひとりの進路希望を把握し、実現に向けたサポートを全職員で実施する。	②個別に丁寧な進路指導を行い、生徒の希望どおりの進路実現が図れたか。進路別説明会が計画どおり実施できたか。	②LHR や放課後ガイダンスを実施した結果、生徒の希望に沿った進路実現が図れた。特に1・2年生自由参加の放課後ガイダンスの参加者が昨年度より参加率が高く、進路実現に向けての意識づけができた。	②就職希望者ほぼ全員が内定、大学進学者は昨年度と同様であった。大学進学率はここ数年良好である。この状況を継続していくためにより一層きめ細やかな指導が必要である。	②生徒一人ひとりの進路に対してきめ細やかに対応し、希望に沿った進学・就職の実績を上げている点も高く評価されるべきものである。特に、1・2年生のガイダンス参加率が向上している点については、どのような取り組みが影響しているのか興味深く思う。	②生徒一人ひとりの進路に対してきめ細やかに対応し、希望に沿った進学・就職の実績を上げることができた。	②1・2年生のガイダンス参加率の向上について、どのような取り組みが影響しているのか分析し、この状況を継続していくためのきめ細やかな指導に繋げる。
4	地域と協働	①学校の教育力（農業）を活かし、地域との協働・連携を一層強化することによって魅力ある農業の発信拠点となる。	①産業界との連携を進め、農業教育を活かした本校の活動を地域に発信し、地域との協働活動を推進する。	①デュアルシステムやインターンシップ、農業体験、農業クラブ校外活動を積極的に進め実践させることにより、地域や社会の発展を支える意識と態度を身に付けさせる。	①地域からの要望を踏まえつつ、地域との連携・協働活動の文化が途切れたところを修復できたか。前年度実績を上回ることができたか。	①地域の行事等への参加並びに公開講座、デュアルシステム、農業体験学習や学校農業クラブ活動において、様々な場で活動発表をすることにより、昨年度よりも一層充実した学びができた。また、近隣の保育園・幼稚園・小中学校への学校見学の積極的な受け入れなどを30回以上行った。また、バ イテクやフラーアレンジ 教室を復活させたことにより、地域に広く本校を広報することができた。	①今後も農業クラブや部活動を中心に、地域からの要望に答えつつ、充実した農業の教育力を活かした教育活動を進める。その際地域との協働や連携を図り、以前実施していた地域連携活動について修復していくよう努める。	①小中学校や地域との交流体験並びに農業体験等を通じて社会性の醸成や将来への目的意識を持つ機会を得られた点を評価する。また、年間 30 回以上の学校見学や中学生の職場体験の受け入れは、非常に意義のある取り組みと考える。 地域を意識した取り組みが実施されており、今後とも継続した取り組みを望む。	①小中学校や地域との交流体験並びに農業体験等、様々な場で活動発表をすることにより、社会性の醸成や将来への目的意識を持つ機会を得られた。また、年間 30 回以上の学校見学の受け入れを行うことができた。今後も継続が必要である。	①今後も地域等との協働を進めるとともに、小中学校からの職場体験の受け入れや海老名市立中学校の中農体験を実施していき、地域と協働した魅力ある農業の発信拠点としての中央農業を目指す。
		②えびな支援学校との連携・交流をとおして、インクルーシブ教育の推進を図り、いのちや人権を尊重する精神を育む。	②えびな支援学校との連携・交流を様々な場面でを行い、インクルーシブ教育への理解を深める。	②学校農業クラブを中心にえびな支援学校と農福連携授業を展開し、動植物との触れ合いを通してインクルーシブ教育を深める活動を展開する。	②えびな支援学校との連携・交流を通して、参加した生徒の意識が変容したか振り返りアンケート等を実施する。	②科目「生物活用」や「課題研究」において農福連携授業を展開しインクルーシブ教育の推進を行うことができ、受講生徒アンケートでは「支援が必要な生徒との関わりと障害者理解について意識が変わった」という回答が多くみられた。	②科目「生物活用」や「課題研究」を通して、次年度以降も継続して連携授業ができるように連絡調整を密にしていくなが必要がある。	②えびな支援学校との連携はお互いに得るものの多い誇るべき取り組みの一つだと感じている。今後も障害者の理解をして頂く生徒を増やしてもらいたい。 ロッカー型自動販売機の導入効果についても教えてほしい。	②えびな支援学校との連携の中で他者を尊重する力や人権意識を育むことができた。一部の科目だけでなくさらに連携授業ができるように農福連携進めていく必要がある。	②農福連携をさらに推し進め、農業各科目において障がい者理解について意識できるような取り組みを行い、インクルーシブ教育の推進を行う。
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事防止の徹底を図り、生徒にとって安全・安心そして信頼される学校づくりを推進する。	①風通しの良い職場づくりを意識し、同僚性を高め、当事者意識を持つことにより、事故・不祥事防止の徹底を図る。	①人権を意識する校長メッセージの発信及び校内研修を定期的に実施するとともに、生徒に対して、学年・教科等と連携し、必ず複数の職員対応する体制を整える。生徒の主体性を引き出す指導を行ない、強制的な指導にならないように努める。	①生徒の支援体制における情報共有が確実になされたか。職員の業務分担が明確にされ、かつグループ業務が計画どおり実施できたか。	①外部講師による人権教育校内研修を実施するとともに職員の規範意識の向上に努めることにより、生徒の主体性を引き出す指導を実施できた。学年・教科並びに各グループ間において情報共有・協力し、業務を遂行することができた。	①外部講師による人権教育校内研修については大変有効であったため今後も継続して実施していきたい。各業務において複数対応する体制は整いつつあるが、情報共有と迅速な動きに対して課題を残した。	①外部講師による人権教育が有効であったとの校内評価があるので、内容についても教えてほしい。また、SNS による匿名の誹謗中傷が原因で命が奪われる事例もあり、人権意識の向上と理解を深める取り組みは極めて重要です。今後も継続的な啓発活動に取り組んでいただきたい。	①外部講師による人権教育校内研修を実施し、職員の規範意識が向上できた。今後は、職員の同僚性を高める点について課題となった。	①職員の人権意識の向上と理解を深める研修を行うとともに、互いの情報を共有・協力を促すことにより、同僚性を高めるよう努める。
		②学校施設環境を整備するとともに有効活用を行い、魅力ある学校づくりを進める。	②学校施設環境の整備を推し進め、最新の施設と設備のもと魅力ある教育内容の充実を図り主体的に学ぶ意識を高める。	②課題となっている生徒更衣室の整備等生徒にとって快適な学習施設環境を整備する。実験・実習において農作業器具等の取扱基準に遵守し、事故をゼロにするよう取り組む。	②安全・安心な学習環境の整備が行えたか。また、施設設備が有効に活用されたか。実験や実習での事故防止ができたか。	②安全・安心な学習環境の整備に向け、生徒更衣室の整備を行い、生徒の学習環境を改善した。実験・実習において事故防止に努めていたが、大きな事故はないがケガ等は数件あった。	②引き続き、快適で事故のない学習施設環境を整備する観点から、老朽化施設の修繕・改築が課題となる。特に大雨時の昇降口付近や園芸科学科管理棟等の整備が今後の課題となる。今後も事故防止に努めていく。	②老朽化した施設・設備は単独校としてどうにもならないところだとは思いますが、生徒たちの学習活動に支障のないようにしてほしい。	②安全・安心な学習環境の整備に向け、生徒更衣室の整備を行い、生徒の学習環境を改善した。今後、老朽化施設の修繕・改築が課題となる。	②衛生委員会とも協力し、老朽化施設の修繕・改築の優先順位を決め、順次修繕・改築を進めていく。